
私の彼氏。

みのり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の彼氏。

【Nコード】

N4611I

【作者名】

みのり

【あらすじ】

ただのイチヤイチャ話です。

ちよっと、15禁はいつてるかも。
すごく短いです。

(前書き)

ちよつと、というかだいたい書き直しましたあ
1度読んだ人ももう一度つ。
けっこう、増えてます。

今いるのは、ソファで寝ている男の部屋。

どうしてココにいるかって？ それは、1つ年上のこのマイペース男を起こすため。

「おーい。起きろお。学校始まつちゃうよ！」

「んんんんん。」

そう、今日は学校だというのにこの男、「有川 流」（ありかわりゆう）はソファで寝ているのだ。私は、もう準備万端だというのに。 まあ、もうこれも毎日の日課だ。

（なんで、こんな人を彼氏にしちゃったんだろ……。このグータラが直れば言うことナシなのになあ。）

そう、私こと「白鳥 紫御」（しらとり しお）。高校1年生だ。ハア、とため息をついてから、流を本気で起こしにかかる。

「りゅう〜っ！起きないと遅刻だよ。流ったらあっっ！」

横になっていたから、肩をバシバシ叩いてやる。

「……。ん。痛いよ、紫御。おはよう。」

「んもう、おはようじゃないの。その低血圧どうにかしてよね。ほら、早く準備して。」

「はいはい。今、するから。」

そういつて、のそのそと着替え始める。上の服を脱ぐとキレイな体が見える。

(うわぁ……。カッコイイ体。意外と筋肉あるんだぁ。)

初めて見たわけではないが、しっかり明るいところで見ただのははじめてだ。

流は筋肉質ではないが、直に見るといいくらいなカンジで筋肉がある。

じっと見つめていると、その視線に流が気づいた。

「……。なに？俺の体、そんなにイイ？」

ニヤリと笑ってこちらを見る。その言葉を聞いてずっと視線を身体に注いでいたことに気づく。

カアッと顔が熱くなるのをかんじた。

「ツツ！！ 違うからツツ！ ￥￥ ￥￥」

「くすつ。顔真っ赤だよ？」

「 ￥￥ ￥￥ ￥￥ ￥￥ ￥￥ ツツ」

私は、プイッとそっぽを向いた。彼は、まだクスクス笑っている。

だが、その笑みが企むような笑みに変わったことに顔を背けていた私は、気が付かなかった。

流がそつと近づく。そして、私の耳元で低い声でささやいた。

「ちょっとだけ、ね」

ビクツと肩がゆれる。流に肩を押され押し倒される。

「ちょっと、まってっ¥¥¥ 学校は、どうする・・・んんっ!」

そのまま、舌を入れられる。

「んんっ。・・・ちよっ・・・ん・・・。・・・はあっ」

「まあまあ、今日ぐらいいいでしょ。ちょっとぐらい、イチヤイチヤしない?」

そういつてまた、唇を重ねる。

流の手が制服のボタンをはずしていく。キスは、角度を変えてどんどん深くなる。

「ぶはあ・・・。んもう、ちょっとだけだからね?」

彼は、その言葉を受けると満足そうに笑い、愛撫を続けていく。

「あゝあ、もうこんな時間だね。」

時計の針は、10時の方向を向いている。

だが、その人事みたいな言い方にムツとした。

「んもうっ! ダレのせいだと思ってるのッ!」

「え? オレのせい??」

「あたりまえでしょっ!! あんなにつ…… ￥￥ ￥￥ ￥￥ ￥￥ ￥￥ ￥
 ￥￥ ツ」

「あんなに??」

クスクス笑いながら、問いかけてくる。

(この男はあゝっ!!……わかってるくせにいつ ￥￥ ￥￥ ￥)
私は、真っ赤になりながら睨む。

「はいはい、ゴメンゴメン。だけど、あんなに乱れてイイ声で啼いたのは紫御だよ?」

「ツツ!!!!!! もう、そんなこと言わないでよ……。」

「クスツ。 紫御、カワイイ」

また、顔が赤くなる。 もう、流はすぐにそういうことをいう。

「……あつ、学校いかなきゃ!!」

そう言うと、流は嫌そうな顔をした。

「……行くの? こんな時間なのに。」

「行くの! だって、今日は午後から美術があるんだから」

「え。 イイじゃん。 美術ぐらい」

「だって、スキなんだもん。 絵、描きたいのぉ。 ね、行く?」

上目遣いに彼を見る。もちろん、計算づくしだ。

「……。……紫御、やっぱ、ムリ。その顔他の人には禁止、
ネ。」

そして、キスしてきた。

「……んっ。」

(どーしてこうなの?!)

そして、また耳元で「かわいすぎ。誘ってんの?」

ビクッと肩がゆれる。

(結局ううー……………っ!?! このマイペース男おおッ)

彼の甘い時間。実は、私の一番スキなひととき。
ちょっと、わがままだけど、これが私の彼氏です。

だが、彼女がその日、最後まで学校に行けず、怒ったのはムリもない……。

(後書き)

いかがだったでしょう？

初の小説がこれって・・・(汗)

よかったら、感想くださいね。これからのがんばりにしたいとおもいます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4611i/>

私の彼氏。

2010年10月18日09時45分発行